

湯川秀樹と読書

——ノーベル賞物理学者の原点——



「湯川さんが物理学者になるなんて、考えてもみませんでしたわ。多分、文学の方面にでも進まれるのではないかと思っていました」

「そう、文学書はよく読みましたね、子どものころから…」

ノーベル物理学賞受賞（1949年）の翌年に開かれた小学校の同級会での会話です。内向的な文学少年だった湯川ですが、どのようにして物理学を志すに至ったのでしょうか。そして提唱した「中間子論」は、理論物理学者の域を超え、自然哲学者のものだったとも評されます。また、湯川は物理学の研究と教育に尽力するだけでなく、国際的な平和活動にも積極的に参画しました。科学界の代表者として、科学と社会の問題に取り組み続けたのです。その思想と活動の源泉は何だったのでしょうか。

本展示は、湯川を育んだものの一つとして「読書」に着目しました。

旧蔵書と、それらについて語った自伝や随筆を通して、湯川
の精神形成と読書の深い関係を訪ねてみませんか。

と き 2021年7月19日(月) より

月曜日～金曜日（祝日、年末年始、夏季休業日、創立記念日6月18日を除く）

①10:30-11:30 ②13:00-14:00 ③14:30-15:30 ④16:00-17:00

ところ 京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

観覧方法 完全予約制 *感染症対策のため人数に上限あり

1～5名は30日前から予約専用サイトか電話で予約、
6名以上の団体は電話でご相談ください

氏名、連絡先、人数、希望日・時(上記①～④)を
お知らせください

予約専用サイト:
<https://airrsv.net/tenjikuy/calendar>

電話: 075-753-7000



観覧料 無料



*詳細は常設展示観覧案内ページをご覧ください→

<https://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/tenji>